

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定) 実施結果

視 点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	自立と社会参加を目指し、小学部から高等部まで、キャリア教育の視点に立った系統的で一貫した授業を展開する。	① カリキュラムマネジメント運用計画に沿って、自立と社会参加に向け、小中高の一貫し、連続した系統性のある教育活動を実践する。 ② 1人1台端末の導入に伴い、児童・生徒の意思表出のツールとして、日常的に有効活用する。	① 「学部間の学びの系統表」と標準年間指導計画の効果的な活用と理解の定着に向け、年間指導計画作成時に活用しながら見直し、改善を行う。 各学部の実態に合わせて、教育課程の見直しを行うとともに、日課表について教育課程の見直しが反映されているかの検証を行う。 ② 1人1台端末利活用のための情報共有やミニ研修会などを行い、効果的な活用方法について共有し、主体的な学びへとつなげる。 児童・生徒のコミュニケーション支援やICT活用スキルの育成等、主体的な学びの手立てとして、より効果的に1人1台端末を活用する。	① 「学部間の学びの系統表」と標準年間指導計画を踏まえ、系統的な指導を実践するとともに、見直し、改善することができたか。 カリキュラムマネジメント運用計画に沿って、教育課程の見直しを行い、日課表について教育課程の見直しが反映されているかの検証を行うことができたか。 ② 1人1台端末の利活用に向け、研修会等を通して情報を共有し、教職員のスキルアップを図ることができたか。 1人1台端末の利活用を推進し、児童生徒の主体的な学びを促進し、理解を深めることができたか。					
2 児童・生徒指導・支援	児童・生徒一人ひとりの実態を的確に把握し、教育的ニーズに応じて、児童・生徒の主体的な学びにつながる指導・支援を実践する。	① 発達段階に応じたアセスメントの結果から、児童・生徒の状態を的確に把握し、個別教育計画に反映させて教育活動を展開する。 ② 様々な集団活動を通して、互いの良さを認め合い、自他を大切にすると人権教育を推進する。	① 発達段階に応じた全校共通アセスメントの結果を効果的に活用し、個別教育計画に反映する。 見直しウイークや共有会を活用して、指導・支援の方法や評価の観点等共有して教育活動を実践する。 ② 縦割りの授業や交流の場における集団活動を通して、対話的な場面を設定することで、相互理解を図る。その結果、協調性や思いやりの心を育み、自尊感情を高めるとともに人権意識の向上に取り組む。	① 全校共通アセスメントの結果を、担任をはじめ学部・学年で共有し、共通理解のもと、授業を展開することができたか。 児童・生徒の状態像を的確に捉え、チームとして個に応じた授業実践ができたか。 ② 集団活動を通して、お互いの良さを認め合い、相互理解を促す授業実践や指導を実践し、自尊感情を高めることができたか。					

視 点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援 一人ひとりの適性を活かし、自ら納得できる進路選択につながる進路指導・支援を行う。	①自立と社会参加を見据え、発達段階に応じて小学部から高等部まで、キャリア教育の視点に立った系統的な指導・支援を実践する。 ②各学部と進路支援班が協働し、児童・生徒の適性を活かした進路選択につなげる内容を授業で実践するとともに、地域や保護者に向けて積極的に情報を発信していく。	① 「学部間の学びの系統表」を基本に、将来、身に付けたい力を明確にし、系統的な指導計画を立て、指導・支援を行う。 自らが進路選択できるよう、見学や作業等の体験的な授業を積極的に展開する。 ② 学部や進路支援班と連携し、労働に対する対価や人の役に立つ経験という自己肯定感を高める学びについて、それぞれの発達段階における進路指導を検討し実施する。 進路だよりや学校ホームページ等を通じて、保護者へ見学会等の情報提供を行い、より良い進路選択・支援につなげる。	① 「学部間の学びの系統表」に基づき、将来、身に付けたい力を明確にし、自立と社会参加につながる授業を実践することができたか。 ② 発達段階に応じた進路学習を通して、自己肯定感を高め、働くことへの意欲を高めることができたか。 進路支援班と協働し、児童・生徒の適性を活かした指導・支援ができたか。 保護者への情報提供を通して、連携して進路指導・支援に取り組めたか。					
4	地域等との協働 共生社会の実現に向け、地域や近隣学校と連携し、交流や共同学習等、ともに学ぶ活動を積極的に展開し、相互理解を図る。	①学校運営協議会や学校ホームページ等を通じて、地域や関係機関と連携し、交流や共同学習等、教育活動の充実を図る。 ②学校コンサルテーションの視点に立ち、地域の学校の支援教育体制構築に向けた支援を行う。	① 地域や近隣の学校等、交流や共同学習を進め、その取組を地域や保護者に発信する。 地域資源を活用した授業を推進する。 学校間の連絡会を通して情報を共有し、職員間の交流や合同研修会等の実施を継続・発展させる。 ② より効果的な支援ができるよう相談テーマを精選した「こまのすけプラン」(定期巡回相談)を通して、地域の学校の支援力向上のため、必要な情報発信・支援を行う。 市町教育委員会と連携した取組として実施する。	① 地域や学校間交流を推進し児童生徒間の相互理解が進んだか。また取組を地域や保護者に発信できたか。 地域資源の活用が推進できたか。 学校間交流や地域との交流を実施し職員間の交流が図られたか。 ② 「こまのすけプラン」(定期巡回相談)により、地域の学校の支援力向上に向けた働きかけができたか。 市町教育委員会と定期巡回相談の目的について共有できたか。					
5	学校管理 学校運営 教職員の資質向上を図るとともに、危機管理体制を構築し、安全で安心できる学校づくりを推進する。	①保護者との連絡体制や地域との連携等、非常時を想定した実践的な災害対応力を向上させる取組を実施する。 ②事故・不祥事防止に向けて、全職員が主体的に課題意識を持つとともに、より心理的安全性を向上させる学校づくりに取り組む。	① 非常時における保護者との連絡体制について確認するとともに、避難訓練等体験的で実効性のある訓練を実施する。 地域やPTA、関係機関と連携して安全教育に取り組む。(第2回防災まつりの実施) ② 事故・不祥事を自分事と考える意識向上のため、ヒヤリハットの事例を職員間で共有する。 日ごろの教員同士のコミュニケーションを大切にし、同僚性を高めることで業務の効率化を図るとともに、相互の心身の変化に早く気づけるようにする。	① 非常時を想定した対応について、体験的で実効性のある訓練を実施し、対応力を向上させることができたか。 地域やPTA、関係機関と連携して安全教育に取り組むことができたか。 ② 事故・不祥事防止に向けて、自分事ととらえて行動することができたか。 教員同士、コミュニケーションを図り、同僚性を高めることで心理的安全性を確保できたか。					